

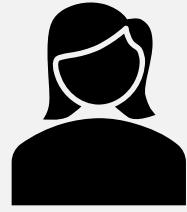


茨城県の教育改革について



2026年2月18日 茨城県

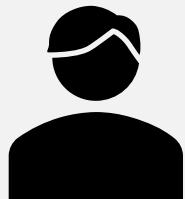
時代や社会の変化に対応した教育を求める声



将来の夢や目標の実現に向け、挑戦できる学力を育ててほしい。



高い英語力を身に付け、世界で活躍したい。



IT分野（技術者）の第一線で活躍したい。



日本語を覚えて、楽しく生活したい。

次世代を担う人財を育成する魅力的な教育が必要

茨城県教育大綱における主な教育改革

魅力ある 教育環境	教員の働き 方改革	① 時間外在校時間の縮減 ② 部活動の地域移行 ③ 教員の安定的な確保
	多様な学び の保障	④ いばらきオンラインスタディ ⑤ 不登校対策（民間フリースクールへの支援） ⑥ ラーニング（体験活動推進日）
次世代を担う 人財の育成		⑦ 小中学生の学力向上（全国学力・学習状況調査） ⑧ 次世代グローバルリーダー育成プログラム ⑨ プログラミング・エキスパート育成事業 ⑩ IBARAKIドリーム・パス ⑪ トップアスリート育成モデル事業 ⑫ 外国人児童生徒の支援

回表
前発

回表
今発

※茨城県教育大綱 = 総合教育会議における知事と教育委員会との協議を経て策定

小中学生の学力向上 ~全国学力・学習状況調査~

課題

全国学力調査の結果を分析

○算数・数学:計算力 ○国語:文章の内容を要約して記述する力

対策

○県独自開発のCBT方式による問題や記述問題等の提供
○各学校で毎週徹底して取組

基礎力アップチャレンジ【中2】③数学

次の問題に挑戦しましょう。問題に答え終わったら、最後に学級や出席番号、市町村名や学校名を選択して送信ボタンを押します。「スコア表示」で採点結果を確認して、できなかった問題の復習をしましょう。継続的に実施していきます。皆さんがあなたデータをもとに、吉手な問題を明らかにして次の問題づくりに生かしていきます。また、市町村や学校の先生も分かりやすい授業づくりに生かしていきます。

mihara.tomo.ya@mail.ibk.ed.jp アカウントを切り替える

□ 共有なし

* 必須の質問です

④ $7 - 3 \times (-8)$ を計算しましょう。(答えとして正しいものをアカ * 1ポイント
ら工までの中から1つ選んで答えましょう。) ⑥

○ ア -32

○ イ 31

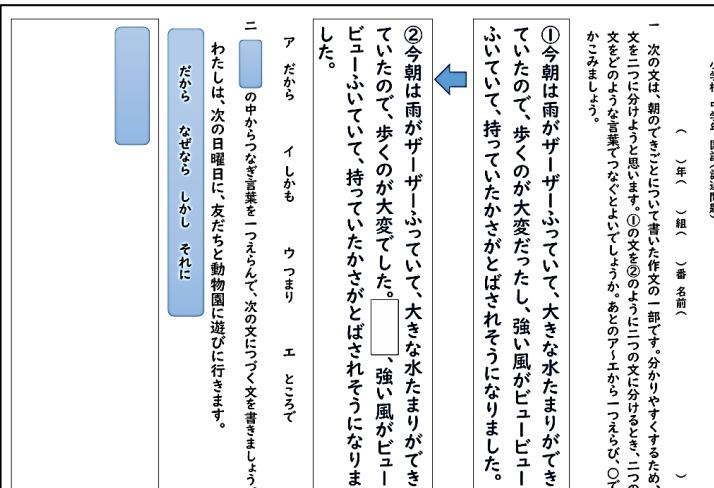
○ ウ -17

○ エ -4

記述問題▶

全県共通の採点基準
に基づき教員が添削

◀CBT方式による問題(オンライン)
正答・正答率を自動で即時に
フィードバック



成果

○2025年度全国学力調査

基礎的な項目の取りこぼしが減少、記述問題の得点
が向上

2007年の調査開始以来、最高となるトータル9位

中学校では全教科1桁順位

	2024年度	2025年度	上昇順位
小国語	23位	15位	+ 8
小算数	25位	23位	+ 2
小理科※2	10位	9位	+ 1
中国語	7位	7位	± 0
中数学	23位	8位	+ 15
中理科※2	10位	9位	+ 1
トータル※1	23位	9位	+ 14

※1 県独自算出による ※2 理科は3年に1回実施

○2028年度全国1位の目標(県総合計画)達成に向け
引き続きCBT方式による問題等の提供を実施

次世代グローバルリーダー育成プログラム

課題

- 国際社会で活躍できる人財の育成
 - ・実践的な英語コミュニケーション力

対策

- 意欲の高い中高生を対象とした、
**探究力と英語力の育成を図る
県独自の2年間のプログラムを展開**

- ・英語プレゼンテーション
- ・英語即興ディベート
- ・高い水準のオンライングループ英語レッスン
- ・模擬国連、海外留学生との交流
- ・国際大会への参加

応募倍率(定員40人)

2018年 88人 **2.2倍** → 2025年 134人 **3.4倍**



成果

- 英語で教養を競う「ワールド・スカラーズ・カップ世界決勝大会」(アメリカ)に**13人が出場し、金メダル17個、銀メダル17個を獲得**(いずれも**過去最多**)

	2019	2022	2023	2024	2025
金	4	3	5	0	17
銀	2	9	2	2	17
参加人数	5	4	6	2	13

- 修了生が**ハーバード大学、インペリアルカレッジ・ロンドン、ハンガリー国立大学医学部等**に進学
- 卒業後、外資系コンサルタント、海外交流事業の起業家、テレビアナウンサー として活躍中



- 英語は苦手だったが、このプログラムにも取り組んで懸命に勉強し、アメリカの世界決勝大会で金メダルを獲得できるようになった。
- 同じ志をもつ他校の生徒と学び合えるのがいい。

プログラミング・エキスパート育成事業～IT社会で活躍する人財の育成～

課題

- デジタル等成長分野を支える人材が不足
- プログラミング・AIに関する教育の充実が必要

対策

○トップレベルのプログラミング能力を持つ中高生を育成

- 3つのプログラミングの分野に特化したコースを設置
- 専門家によるオンライン個別指導や対面講習会を実施

分野1：競技プログラミング

「日本情報オリンピック」セミファイナル出場以上を目指す。

分野2：ゲーム・アプリ開発プログラミング

「神ゲー創造主エボリューション」等での入賞を目指す。

分野3：A I プログラミング

「アプリ甲子園」等のA I 活用系コンテストの入賞を目指す。



成果

○高校生までの競技プログラマー日本一を決定する 「第25回日本情報オリンピック」

1次予選	2次予選	セミファイナル	ファイナル
のべ3940人程度	1379人	190人	30人

本県から過去最多の12人がセミファイナルに進出
(うち6人が本事業参加者)

本県から過去最多の4人がファイナルに進出
(うち3人が本事業参加者)

ファイナル進出者数

都道府県別では全国第3位

学校別では、並木中等教育学校が全国2位、公立1位

都道府県別

順位	都道府県	人
1	東京都	13
2	神奈川県	5
3	茨城県	4
4	奈良県	3
5	兵庫県	2

学校別

順位	学校名	国・公・私	人
1	筑波大学附属駒場高等学校	国立	6
2	茨城県立並木中等教育学校	公立	3
2	筑波大学附属駒場中学校	国立	3
2	東大寺学園高等学校	私立	3
5	開成高等学校等3校	私立	2

IBARAKI ドリーム・パス

課題

高い創造意欲を持ち、リスクに対しても積極的に挑戦できるアントレプレナーシップ（起業家精神）が重要

対策

2019年から本県独自の取組として

高校生等が自分の夢の実現や地域の課題解決に向けた企画を立案し、大学生のサポートや起業家等からアドバイスを受けて実践活動を行うIBARAKIドリーム・パスをスタート

・選抜された16チームは、4か月間の実践活動を行ったのち、その成果をプレゼンテーション

成果

7年間で応募企画数**34倍**（25件→857件）
参加生徒数**27倍**（85人→2,307人）に

開発品の商品化・販売、地域振興イベントの継続実施
クラウドファンディングによる資金獲得
イベントでのピッチ登壇

事業から生まれた商品・取組

COFFEE de CLEAR



味噌ケーキパン



ちくせいビアフェス



勝田中等教育学校

▶コーヒー豆残渣を再利用した消臭剤の開発・商品化

石岡第二高等学校

▶地域特産の味噌を活かした菓子パンの開発・商品化

下館第一高等学校

▶地域活性化イベントを企画運営、3年間の継続実施

トップアスリート育成モデル事業～アスリートの育成～

課題

- 茨城の子どもは運動能力が高いが、全国、世界で活躍するトップアスリートの輩出が少ない



対策

- 県内にプロチームのある**バスケットボール**、**サッカー**の2競技からトップアスリート(プロ選手、日本代表選手)を輩出するための選手育成システムを構築

<バスケットボール>

- 年代別に有望な選手を選抜(U15、U16、U18)男女各20人
- 県外有力チームとの対戦やプロチームコーチによる指導



<サッカー>

- 県選抜チームが、U22日本代表やスペインなどの海外クラブチーム(U21)など、高レベルなチームと対戦する大会を開催

成果

- トップアスリートを育成する選手育成システムが構築され、**プロ選手や年代別日本代表選手を輩出**

主な成果	
バスケットボール	年代別日本代表3人 日本バスケットボール協会育成選手4人 〈主な選手〉 鈴木花音(筑波大学) U19日本代表 飯田渚颯(土浦日大高) U18日本代表 常見寛章(国際アート&デザイン大学校高等課程) U16日本代表
サッカー	プロ選手6人、年代別日本代表2人 〈主な選手〉 内田優晟(水戸ホーリーホック/2023年入団) 徳田 誉(鹿島アントラーズ/2025年入団) ※U22、U18日本代表 大川佑梧(鹿島アントラーズ/2026年入団) ※U22、U18日本代表



今後の方針

- 対象競技の拡大(2026年度～3年間競技指定)
バスケットボール、サッカー、ウェイトリフティング、水泳(AS)、スポーツクライミングの**5競技を選考**

外国人児童生徒の支援

課題

- 外国人児童生徒が5年間で約1.5倍に大きく増加

3,341人 (2020) → 5,156人 (2025)

- 3人のうち1人が外国人の小学校も

- 日本語支援体制の構築が急務

対策

- 支援体制・予算を大幅に拡充

	2025	2026予定
予算額	4.3億円	7.2億円
日本語支援員	【小中】 8市町47校 53人	20市町98校 80人
	【高】 7校 7人	10校 12人
大学と連携したオンライン日本語指導【小中】	継続	
NPOと連携した通訳・翻訳支援【高】	継続	
大学と連携したキャリア支援【高】	継続	
通訳アプリ提供【小中高】		新規

効果

- 日本語指導が必要な小中学生の支援率が向上

	2024	2025	2026見込
指導が必要な人数	1,862人	2,164人	2,261人
支援を受けた人数	1,408人	1,753人	1,945人
支援率	75.6%	81.0%	86.0%

- 学校生活への適応

(例 交通ルール遵守、円滑な友人関係)

- 日本語習得への意欲向上

(例 日本の高校に進学)

- 日本人児童生徒との交流機会による日本文化理解

(例 ブラジル人学校と公立中学校との交流)

- 地元企業への就職

(例 半導体部品製造業、菓子製造業)



○やさしい日本語や母語を交えて教えてくれるから、
勉強がわかりやすくなった



○母語による相談が気軽にでき、学校行事の目的、
持ち物などの理解ができた

茨城の未来をつくる「人財」を育てるため、

新しい時代に求められる能力の育成を
進めるとともに、

グローバル社会で活躍できる「人財」を
育成してまいります。

また、外国人児童生徒が、
安心して学ぶことができる教育環境の充実に
取り組んでまいります。

(次回予告)

県立高校改革
の取組

- 中高一貫教育校の設置促進
- 県立高校への医学コースの設置
- “公募校長”による学校経営改革

